

2017年11月29日

ミニトマト栽培におけるネバリン施用試験結果

日本肥糧株式会社

1. 目的 ミニトマト栽培におけるネバリンの施用効果を確認する。
2. 場所 茨城県銚田市(JAほこた、銚田地域農業改良普及センター管内)
3. 作目 ミニトマト
4. 品種 「甘っこ」(自根)
5. 定植日 2017年7月10日
6. 調査日 2017年9月4日(中間調査)、11月15日(収穫終了時調査)
7. 施用資材 試験区のみネバリン 20kg/2a(ベツト部分のみに施用)
8. 調査項目 9月4日: 圃場状況の確認、生育の状況確認
11月15日: 収穫終了時における試験区、慣行区の連続5株根の掘り取り調査

9. 調査結果

1) 中間生育調査(9月4日)



写真1. 試験区(施用4棟目)



写真2. 慣行区(無施用3棟目)



写真3. 試験区(施用4棟目)



写真4. 慣行区(無施用3棟目)

- ① 慣行区(無施用3棟目)と試験区(施用4棟目)の生育状況を入口部分からと両棟の間から同じアングルで写真撮影を行い比較した。
- ② 写真を比較すると、試験区の葉の面積が大であり、生産者の意見としては、ネバリン施用で初期の生育状況が良かった。株元の軸の太さが試験区の方が太い傾向があり、草勢が全体的に旺盛であった。また、実の着きが良く、玉伸びが良い傾向にあった。

2)収穫終了時生育調査(11月15日)



写真5. 試験区(施用4棟目)



写真6. 慣行区(無施用3棟目)



写真7. 掘り取り後の根の比較(左:試験区(ネバリン施用区)、右:慣行区)

3)根長・乾物重分析結果および考察

総根長(m/株)	①	②	③	④	⑤	平均値
試験区	66.7	68.2	49.7	32.3	56.1	54.6
慣行区	41.2	48.7	55.8	41.2	56.2	48.6

乾物重(g/株)	①	②	③	④	⑤	平均値
試験区	3.28	3.78	2.65	3.06	3.28	3.21
慣行区	2.50	3.04	3.99	2.85	4.01	3.28

- ①調査日(11月15日)以降の最低気温は氷点下になる状況で、ミニトマトの葉や葉柄は枯れ始めた状態であった。
- ②根長は試験区でやや長い傾向があり、根洗い後の状態を見ると白い活力のある根が試験区で多いように思われた。
- ③乾物重については、試験区と慣行区で差異が見られなかった。
以上の結果から、ネバリン施用によりミニトマトの根圏に水溶化腐植が浸透して、土壤中の養分や微量元素を効率よく吸収させることで、初期生育や玉伸びが良かったものと思われる。

以上